

途上国アルバム：住民投票間近のフィリピン・コタバト

小森 剛

平和構築・復興支援室企画役

独立行政法人国際協力機構社会基盤・平和構築部

2019年1月21日と2月6日に、フィリピン・ミンダナオ島西部では、モロ・イスラム解放戦線（MILF）とフィリピン政府との和平合意に基づき制定された「バンサモロ基本法（BOL）」の是非を問う住民投票が行われる。この住民投票ではBOLの信任を問うとともに、新たに設立される予定のバンサモロ・ムスリム・ミンダナオ自治地域（BARMM）の領域に加入するかも問うものになる。「バンサモロ」は、モロ（この地域に住むムスリム）の人々が住む地域という意味である。2018年11月、現在行われている事業評価のため、住民投票で票が分かると予想されているコタバト市に向かった。コタバト市は、ミンダナオ島西部に位置し、ミンダナオ島第5の都市（ダバオ→ザンボアンガ→カガヤンデオロ→ジェネラルサントス→コタバト）、人口30万人程度の内、70%以上がムスリムである（ミンダナオ島ではムスリムの割合は25%弱）。



緑色が現在の ARMM 地域
赤の矢印の先がコタバト市



コタバト市上空



コタバト空港



チェックポイント

この地を訪れるのは8年ぶりである。空港は当時と変わった様子はないが、マニラからのフライトが1日1〜2便程度であったものが2〜3便と増加し、満席であった。荷物を待っていると停電になり、ターンテーブルが使えなくなり人力で荷物を運ばざるを得なくなっていた（このような停電は一日に数回発生している）。市内に向かう道路には、昨年のマラウィ市でのISとの戦闘以降に継続されている戒厳令もあり、警察や軍のチェックポイントが各所に設置されている。ただ、このようなチェックポイントはMILFとの和平合意前から設置されており、市民にとっては日常の光景となっている。市内に入ると、町並みそのものは8年前と変わらないように思えたが、フィリピンで有名なハンバーガー・チェーンの店舗が増え、これまでは全くなかったショッピングモールの進出やお洒落なカフェを見ることができた。2014年の包括和平合意をきっかけに、町が活気づき、ホテルや店舗が増え、土地の値段も上がっているという。人々の服装もお洒落になったように見える。



人気のハンバーガー・チェーン



コーヒーショップ



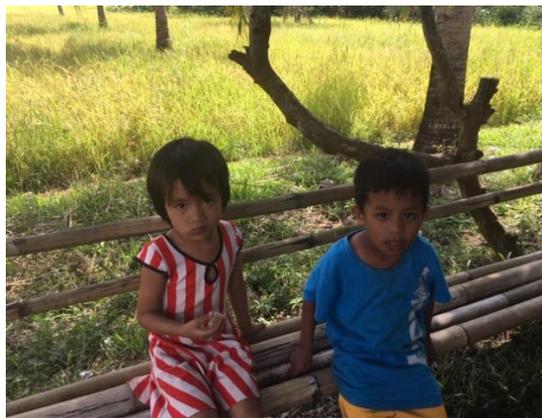
ショッピングモール

クタバト市から北に位置するマギンダナオ州ブルドン町に向かった。ブルドン町内にある紛争影響コミュニティ（村）では、陸稲栽培を試みている。灌漑施設が整備されていない土地であるが、年間を通じて降雨があることから陸稲が選ばれた。この村は、紛争の影響が色濃く残り、これまで、国の技術者や町の農業普及員が立ち寄ることができない土地であり、稲作技術も伝わっていなかった。ところが、当初数十人を対象に技術普及を開始したが、栽培技術の簡易さと1年に2〜3回収穫ができることから、多くの農民が最初の栽培農家から種もみを購入するなどして1年程度で250世帯に広まっている。ムスリムの教えもあり、最初に技術を習得した農家が、無線などを通じてより多くの人々に技術を伝播していた。一方で、道路脇で収穫後の米の乾燥を余儀なくされるなど、多くのインフラが不足している現

実も見ることができる。



ブルドンの陸稲栽培



農家の子ども達



道路脇での穀物乾燥

コタバト市に戻り、ムスリム・ミンダナオ自治地域（ARMM）政府庁舎を訪れた。先ほどの BARMM と ARMM は似て非なるもので、ARMM はモロ民族解放戦線（MNLF）との和平交渉により設置された自治地域である。一方で BARMM は MILF との和平合意に基づき設立される予定の地域である。

・ ARMM (Autonomous Region in Muslim Mindanao) : MNLF との和平交渉に基づき、1989 年の住民投票により加入地域が決まり、1990 年に政府が設立された。MNLF との最終和平合意は 1996 年。その後 2001 年に拡大 ARMM 住民投票を経て現在の領域となった。

・ BARMM (Bangsamoro Autonomous Region in Muslim Mindanao) : MILF との和平合意に基づき、2019 年 1～2 月の住民投票により BOL を承認した地域が加入し領域を形成する。住民投票後、暫定移行政府が設立され、2022 年に選挙を経て、バンサモロ政府が設立される見込み。

ARMM 庁舎が立地するコタバト市は、ARMM 庁舎が立地しているにも関わらず、ARMM(右図の緑色部分)には入っていない。これは、ARMM を設置する際の住民投票の結果で加入しないことが決まったためである。BARMM を決める住民投票では、ARMM やコタバト市、ARMM 周辺地域も対象となり、これらが BARMM 領域となる可能性がある。BOL では BARMM に設立されるバンサモロ政府に ARMM 政府以上の財政自治など大きな権限を与える予定であり、人口が大きいコタバト市の加入は、BARMM 政府の財政運営上も非常に重要になる。そのため、街角の多くに「Yes to BOL」



のボードが掲げられている。



ARMM 政府庁舎



投票を呼び掛けるポロシャツボード



コタバト市庁舎

住民投票の結果、BARMM の領域が確定すれば、早期に暫定移行政府が設立され、BOL に基づき 2022 年のバンサモロ政府設立に向けた移行プロセスが開始されることになる。和平合意後の合意内容の履行が進み、紛争に戻らないことを願うのみである。是非 1 月 21 日と 2 月 6 日に行われる住民投票に注目いただきたい。



コタバト市の街並み



大通りから少し外れた街並み



街並みと乗合バス